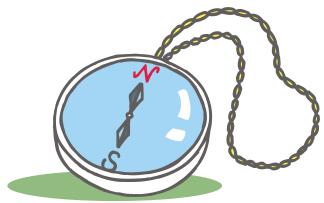


羅針盤



第 29 号 令和4年(2022年)1月11日(火)

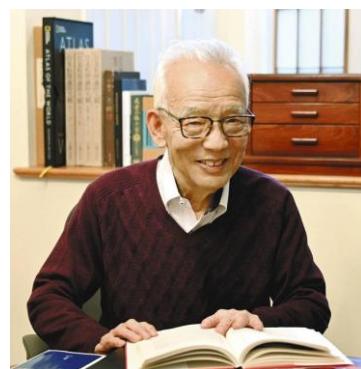
◆『志(し)』と『恕(じょ)』

全校集会では、これまでに幾度となく「志(こころざし)を立てる」ことについて、生徒の皆さんに、繰り返し話をしてきました。年頭にあたり、改めて「志(こころざし)を立てる」ことの意義について触れておきます。孔子の教えが書かれている中国の古典「論語(ろんご)」から引用してみると、「目標をきちんと定めて物事や勉強を始めることが、とても大事なことであるということ」であり、その目標を実現するための基礎となるべきものが「志(こころざし)」ということになります。また、その「志(こころざし)」と同じく大切なこととして、孔子はその弟子たちに、一字を大事にすれば一生無難に生きられる言葉として「恕(じょ)」を示したと言います。「恕(じょ)」という言葉の意味は「思いやり(相手の気持ちを自分のことのように受け止めて考えること)」で、訓読みでは「恕(ゆる)す」(思いやって許すということです)と読みます。コロナ禍の世界で生き抜くために、最も大切なことが、この「恕(じょ)」の心ではないでしょうか。「恕(思いやり)」の心をもちながら、高い「志」を持続することが、生徒の皆さん一人ひとり持つ「夢」の実現への近道であることは言うまでもないでしょう。また、「志」という字は、武士の「士」という字の下に「心」と書きます。「士」は「十」と「一」で成り立ち、「十」は多数を、「一」はその取りまとめ役のことを意味しています。つまり「志」とは本来「公に仕える心」を意味するものです。「志を抱く」といっても、何も大きな事業を起こす必要はありません。「公」のために(広い意味で自分なりに社会に貢献することを意味します)、自分の持ち場で、自分ができることをしっかりとやり抜くことこそ立派な「志」であるということです。私たちは、誰一人として孤立して生きているわけではありません。家族や友人、先輩、後輩、そして、先生、あるいは、地域の人たちなど、さまざまな人たちの支えを受けながら生きています。このことをしっかりと顧みることで、自ずと「公」のために生きていく使命感ともいえる「志」を感じとることができるのでないでしょうか。日々の生活の中で、自らの心を磨き、自分を高めていくことができる人であってほしいと思います。



◆「気候変動」でのノーベル物理学賞

昨年の12月6日午後(日本時間7日早朝)に、ワシントンにある米科学アカデミーで、ノーベル物理学賞に輝いた真鍋淑郎(しゅくろう)・米プリンストン大上席研究員らを表彰する式典が開かれました。式典では、ス



ウェーデンのオロフスドッター駐米大使から同賞のメダルと賞状が授与されました。真鍋さんは、1950年代後半からコンピューターを使って気候変動を予測する数値モデルの研究に取り組み、二酸化炭素などの増加によって、地球規模で気温上昇が起きることを世界に先駆けて示してきました。彼の業績は、人間活動による温暖化の影響を探る研究の礎となり、世界各国が取り組む温暖化対策の科学的な根拠となりました。ノーベル物理学賞の選考委員長を務めたストックホルム大のハンソン教授は、彼こそが気候変動の予測モデル分野を切り拓いた「真の先駆者だ」とたたえています。

